

事業主体者 弘前市(観光政策課)、一般財団法人弘前市みどりの協会

住所 青森県弘前市大字下白銀町1-1

電話 0172-35-1128

URL <http://www.hirosakipark.or.jp/>

事業概要

弘前市は全国的に有名な桜や紅葉の名所「弘前公園」があり、特に桜開花シーズンは数多くの観光客が訪れる。しかし桜の見ごろは限定的で、しかも気象条件によって開花時期が異なるため、遠方からの観光客(特に訪日旅行者)にとっては、桜の開花を見られない可能性がある。

本事業は先進的な映像技術等を活用して、通年で楽しめるようにすることで、観光コンテンツを増やし、観光客の増大を目的に実施されたものである。

スマートグラスガイドツアーは、弘前公園の新たな観光コンテンツとして、季節ごとの光景や史跡の過去の画像、各ポイントの紹介映像がインストールされているメガネタイプのウェアラブル端末を身に着けて、ガイドとともに園内の見どころを巡る観光ツアーである。体験料は、中学生以上1,000円。

平成27年に弘前市がICTの有効利用策を検討する中で、弘前市の状況把握、システム構築、実証実験、結果分析等を行い、弘前公園におけるガイドツアー実施に必要な業務を専門業者に委託。ガイドツアーの設計、撮影、アプリ開発等を経てコンテンツを完成させた。

平成28年7月から「弘前公園スマートグラスガイドツアー」を弘前市みどりの協会が催行を開始した。また春・秋の映像を追加更新、タイ語の追加、PR用パンフレット作成、スマートグラスと操作用タブレット端末を追加購入した。平成29年には東北観光復興対策交付金を活用し、冬の映像を更新。

外国語に翻訳する際、言語表現の正確性が重要なポイントであることから、ネイティブスピーカーのチェックを受けるようにしている。

効果や課題

ツアー参加者が徐々に増加している。参加者実績は、平成28年度611人(7月～翌年3月)、平成29年度949人、平成30年度1,113人(4月～11月)である。

参加者の約16%が外国人観光客で、国・地域別で見ると台湾が最も多く、韓国、中国、タイがそれに続いて多い。多言語対応になっており、しかも複数の言語を同時に配信できるので、参加者が多国籍であっても同時に対応可能であることが参加者から評価されている。今後、スペイン語を追加予定。

操作端末からスマートグラスに映像データを送信する際、Bluetoothを使用しているため、スマートグラスごとに数秒の時差が生じる。そのため参加人数が多い場合時差が大きくなることと、

通信範囲が狭いことから1グループ10人程度にして運用している。

今後、ガイドの人件費に加え、スマートグラスの破損などによって修繕費や買い換えの費用などが発生することが予想され、事業として成り立たせるためには、今まで以上の集客が必要で、年間5,000人の集客を目標としている。

多言語対応のツアー用チラシ作成や、ホームページ、SNSでの情報発信、旅行代理店への営業活動、Fam tourなど、様々なセールスプロモーションを実施しているが、営業収支の関係で大規模な活動ができないのが現実。認知度をさらに高めることが課題である。

事業費

平成27年度:2,020万円(一部国土交通省の歴史的風致活用国際観光支援事業を活用)

平成28年度:1,239万円(一部東北観光復興対策交付金を活用)

平成29年度:677万円(一部東北観光復興対策交付金を活用)



ガイドツアーの様子。
操作端末を携行したガイドが同行して、案内をしながら端末を操作する。



スマートグラスの映像。弘前城の歴史に関する解説や、四季折々の弘前公園と周辺の観光スポットの映像を見ることができる。

